

労働災害（休業4日以上）発生状況（平成30年1～6月分）

I 報告の概況

平成30年1～6月の半年の間に全国の会員事業場で発生した休業4日以上の死傷災害のうち、各総支部から報告があった60件（前年同期の56件と比較し、7.1%増加）について集計したものである。

II 労働災害発生状況

1 総支部別

報告のあった60件の状況は以下のとおり、5つの総支部で前年より増加している（表—1）。

表—1 総支部別

総支部	北海道	東北	日本海	千葉	東京	神奈川	東海	大阪	兵庫県	中国	四国	九州	沖縄	計
H26	6	6	17	2	11	39	27	12	18	3	1	12	4	158
H27	7	7	3	1	8	34	26	15	13	6	4	12	5	141
H28	4	1	8	0	6	18	26	14	15	1	2	19	3	117
H29	6	2	7	0	3	24	21	16	18	3	0	20	7	127
H29 1-6	4	0	4	0	2	8	14	5	5	1	0	10	3	56
H30 1-6	2	3	6	0	1	14	8	5	7	0	0	14	0	60

2 雇用形態別

雇用形態別の状況は以下のとおり、常用が約9割を占めている（表—2）。

表—2 雇用形態別

雇用形態	H26	H27	H28	H29	H29 1-6	H30 1-6
常用	134	119	103	108	48	53
派遣						
日雇	24	22	14	19	8	7
計	158	141	117	127	56	60

3 年齢階層別

年齢階層別の状況は以下のとおり、30歳代と50歳代が多い（表—3）。

表—3 年齢階層別

年齢階層	H26	H27	H28	H29	H29 1-6	H30 1-6
30歳未満	31	35	26	25	11	8
30～39歳	37	33	26	24	11	19
40～49歳	39	36	28	36	13	9
50～59歳	30	22	26	29	14	18
60歳以上	21	15	11	13	7	6
計	158	141	117	127	56	60

4 月別

月別の状況は以下のとおり（表—4）。

表—4 月別

月	H26	H27	H28	H29	H30
1月	21	14	10	12	9
2月	13	11	12	9	14
3月	15	16	10	12	7
4月	14	11	5	6	11
5月	7	12	9	11	12
6月	15	14	11	7	7
7月	12	7	14	16	
8月	8	12	9	11	
9月	10	11	8	11	
10月	14	11	13	11	
11月	17	9	8	13	
12月	12	13	8	8	
計	158	141	117	127	60

5 曜日別

曜日別の状況は以下のとおり、水曜日が最も多い（表—5）。

表—5 曜日別

曜日	H26	H27	H28	H29	H29 1-6	H30 1-6
日	7	7	7	2	2	1
月	29	22	22	25	9	10
火	26	22	21	17	7	8
水	28	24	21	26	7	13
木	22	25	19	25	14	9
金	25	25	19	21	12	9
土	21	16	8	11	5	10
計	158	141	117	127	56	60

6 時刻別

時刻別の状況は以下のとおり午前9時台が最も多い（表—6）。

表—6 時刻別

時刻(～時台)	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24-4	計
H26	1	6	1	11	27	10	12	1	16	12	15	17	7	4	1	5	2	2	5	3	158
H27	0	1	2	9	18	14	10	2	12	14	18	13	6	4	3	5	2	1	6	1	141
H28	0	0	5	10	13	11	14	3	10	10	12	10	6	3	3	3	0	1	3	0	117
H28	0	0	5	10	13	11	14	3	10	10	12	10	6	3	3	3	0	1	3	0	117
H29	3	0	3	12	20	10	10	1	10	15	11	6	5	6	4	4	3	1	1	2	127
H29 1-6	3	0	1	6	9	4	4	0	4	5	6	3	2	4	1	0	3	0	0	1	56
H30 1-6	0	1	0	5	13	6	9	0	5	2	4	0	4	0	1	2	2	3	1	2	60

7 業種別

業種別の状況は以下のとおり、船内と沿岸が多く、同数となっている（表―7）。

表―7 業種別

年	船内	沿岸	はしけ等	検数等	関連	その他	計
H26	71	53	9	3	18	4	158
H27	59	56	3	3	14	6	141
H28	47	52	3	8	9	1	117
H29	43	64	1	0	11	7	127
H29 1-6	18	28	1	0	6	3	56
H30 1-6	22	22	1	4	8	3	60

8 起因物別

起因物別の状況は以下のとおり、物揚げ装置等が多いという傾向が続いている（表―8）。

表―8 起因物別

起因物	H26	H27	H28	H29	H29 1-6	H30 1-6
動力機械	2	4	4	3	3	1
物揚げ装置等	50	33	35	31	13	19
その他装置等	27	13	17	11	5	6
仮設物、建物等	33	31	24	19	9	16
物質、材料	3	13	2	7	4	2
荷	32	23	20	26	7	9
環境等	2	3	4	4	3	1
その他	9	14	11	26	12	6
計	158	141	117	127	56	60

9 作業職種別発生状況

作業職種別の状況は、作業者が最も多い（表－9）。

表－9 作業職種別

作業職種	平成26年	平成27年	H28	H29	H29 1-6	H30 1-6
船内荷役作業主任者	1	4	5	2	1	2
フォアマン	2	1	2	1		0
沿岸荷役主任者				1		0
運転者	14	11	12	6	4	4
合図者	10	3	6	8	4	1
玉掛け者	14	18	17	12	5	3
検数員等	4	3	8	1		4
ラッシャー	14	18	10	6	3	3
清掃	2	1	1	1	1	0
作業者	92	74	54	81	33	41
その他	5	8	2	8	5	2
計	158	141	117	127	56	60

10 関連機械別（機種別）

災害発生に機械の運転が関連した42件の状況は以下のとおりフォークリフトが最も多い（表-10）。

表-10 関連機械別

関連機械	平成26年	平成27年	平成28年	平29	平29 1-6	平30 1-6
揚貨装置	19	10	10	5	1	2
天井クレーン	1			2		0
ガントリークレーン	16	15	5	5	4	2
トランスファークレーン	1			2	1	1
移動式クレーン	14	19	9	9	6	2
フォークリフト	24	17	20	25	9	13
ストラルドキャリアー	3		1	0	0	2
ショベルローダー	2	2	4	1	1	2
ブルドーザー		1	1	0	0	1
フォークローダー			1	0	0	0
トレーラー	2	5	3	5	0	2
上記以外のクレーン	1		1	0	0	0
その他	18	20	12	24	9	15
計	101	89	67	78	31	42

1.1 経験年数別

経験年数別にみると、0～9年が31件で最も多くなっている（表-1.1）。

表-1.1 経験年数別

経験年数別	平成26年	平成27年	H28	H29	H29 1-6	H30 1-6
0～9年	71	74	54	62	26	31
1年未満	(15)	(15)	(12)	(18)	(7)	(11)
1～4年	(28)	(39)	(16)	(26)	(10)	(6)
5～9年	(28)	(20)	(26)	(18)	(9)	(14)
10～19年	39	28	23	29	13	15
20～29年	27	27	30	19	8	7
30年以上	18	12	10	17	9	7
不明	3					
計	158	141	117	127	56	60

1.2 船型別

災害発生に船型が関連した35件の状況は以下のとおり、コンテナ船が多く、次いで在来船となっている（表-1.2）。

表-1.2 船型別

船型	平成26年	平成27年	平成28年	H29	H29 1-6	H30 1-6
コンテナ船	31	32	27	23	13	14
RO/RO船	6	8	5	4	2	2
在来船	40	37	28	28	11	13
はしけ	11	5		1	1	0
その他	10	5	8	15	6	6
計	98	87	68	71	33	35

13 事業場規模別

事業場規模別にみると、50人未満の規模が最も多くなっている（表-13）。

表-13 事業場規模別

規模別	平成26年	平成27年	平成28年	H29	H29 1-6	H30 1-6
1～49人	52	52	46	57	23	23
1～9人	(7)	(12)	(4)	(8)	(5)	(5)
10～29人	(28)	(17)	(27)	(22)	(11)	(8)
30～49人	(17)	(23)	(15)	(27)	(7)	(10)
50～99人	37	33	30	28	10	13
100～299人	61	45	33	33	18	21
300人以上	1	5	8	9	5	3
計	158	141	117	127	56	60

1.4 品名（貨種）別

災害発生に品名（貨種）が関連した40件についての内訳は以下のとおり、鋼管・鋼材にかかる災害が多い（表-14）。

表-14 品名別

品名(貨種)	平成26年	平成27年	平成28年	H29	H29 1-6	H30 1-6
原木	3	4	4	2	2	2
製材	4	2	2	3	1	0
合板	1	0	1	1	1	0
車	4	5	3	2	1	3
鋼管・鋼材	18	22	11	14	6	8
バナナ	4			0		1
くず鉄	2	2	1	1		0
冷凍魚	2		3	0		0
鉱石	2	1	2	1		1
石炭	2	4	1	1		1
チップ	3	2	3	0		0
雑貨類	3	3	4	3	2	
原糖	2			1	1	0
飼料	1	1	1	1		1
ロール紙	1	1	1	0		0
穀物	3	3	1	5	2	3
その他	26	35	27	15	14	17
不明	31					
計	112	85	65	74	30	40

1.5 荷姿別

災害発生に荷姿が関連した40件についての状況は以下のとおり、コンテナが最も多く、次いで、ばら物等が続いている（表-15）。

表-15 荷姿別

荷姿	平成26年	平成27年	平成28年	H29	H29 1-6	H30 1-6
素材「裸」	12	16	6	4	3	2
袋物	9	13	7	6	2	3
ペール	1	0	1	0		0
棒物	9	7	4	3	1	3
束物	7	7	9	11	3	3
ばら物	14	9	7	9	5	7
箱物	10	3	9	10	2	2
缶物	1	0	2	1		1
コンテナ	34	20	23	26	12	8
車	5	5	1	3	1	4
その他	17	11	12	17	6	7
計	119	91	81	90	35	40

1.6 事故の型別

事故の型別についてみると、多いのは、はさまれ・巻き込まれ、転倒、墜落・転落の順となっている（表—16）。

表—16 事故の型別

事故の型	H26	H27	H28	H29	H29 1-6	H30 1-6
墜落、転落	42	48	36	34	19	13
転倒	18	9	18	15	7	15
激突	10	10	4	7	2	3
飛来、落下	21	14	14	7	1	2
崩壊、倒壊	3	3	1	5	1	0
激突され	15	8	10	9	3	2
はさまれ、巻き込まれ	33	35	22	35	15	21
切れ・こすれ	2	4	0			0
交通事故・火災等			2	0		0
動作の反動等	13	8	1	11	7	3
その他	1	2	8	3	1	1
計	158	141	117	127	56	60